

教育研究業績書

2020 年 12 月 1 日現在

氏名 櫻木 潤

枚中 枚目

著書, 学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年 月	発行所, 発表 雑誌又は発表 学会等の名称	概 要	編者・著者 名 (共著の場 合のみ記入)	該当 頁数
(著書) 木崎愛吉旧蔵本山コレク ション金石文拓本選 (なに わ・大阪文化遺産学叢書 7)	共編 著	2008年3 月	関西大学なに わ・大阪文化 遺産学研究セ ンター	関西大学博物館が所蔵する本山コレク ションには、日本各地の金石文拓本が 存在する。それらの大部分は、明治 末期から大正初期に木崎愛吉が収集し たものであり、彼が編纂した『撰河泉 金石文』・『大日本金石史』・『大坂 金石史』のもととなった貴重なもので ある。本書は、木崎収集の拓本から70 点を選んで、写真版と個別解説を付し た図録で、掲載拓本の選定や本書全体 の編集を行うとともに、総論「本山コ レクションと木崎愛吉旧蔵拓本」と 「高野山慈尊院道 四里石」・「日部 神社石燈」・「桜井神社 (旧国神社) 石燈」・「聖武天皇造国分寺勅書銅 版」についての個別解説を執筆した。	西本昌弘・ 松永友和	151頁
南紀寺社史料 (関西大学東 西学術研究所資料集刊25)	共編 著	2008年7 月	関西大学出版 部	本書は、紀伊半島における曹洞宗の拠点 寺院のひとつ新宮宗応寺文書、臨濟 宗法灯派の本山である由良興国寺文 書、紀美野町 (旧野上町) の野上八幡 宮に所蔵される蒙古襲来のさ中、憑依 した八幡神と法灯国師との問答を記録 した託宣記、同町小川八幡宮所蔵の天 平古写を含む大般若経の調査報告とそ れぞれの史料についての解説を収めた 史料集である。本書の刊行にあたって の史料調査を行うとともに、託宣記の 翻刻と概要の紹介と成立について考察 した解説を執筆した。	藪田香融・ 原田正俊	384頁
杭全神社宝物撰 (なにわ・ 大阪文化遺産学叢書18)	共編 著	2010年3 月	関西大学なに わ・大阪文化 遺産学研究セ ンター	本書は、2008年から2009年に関西大学 なにわ・大阪文化遺産学研究センター が行った大阪市平野区の杭全神社総合 調査の成果をもとにした宝物図録であ る。杭全神社は、平安時代前期に創建 されたとの由緒をもつ神社で、多くの 什・宝物類を所蔵する。本書には、 什・宝物類のほか、神事や境内の石造 物や古木を含めた65点の図版、総論、 図版解説が収録されている。収録され た什・宝物類のうち、「熊野の本地絵 草子」・「平野郷社之図」・「永正十 年熊野三所権現玉殿建立棟札」・「永 正十年熊野証誠大権現宝殿造立棟 札」・「寛永二年熊野三所権現玉殿修 造棟札」・「正徳元年牛頭天王祠落成 棟札」・「後西院宸筆般若心経」・ 「妙法蓮華経」・「熊野三所権現神号 扁額」・「牛頭天王神号扁額」・「末 吉藤右衛門寄進石灯籠」・「本多忠良 寄進石灯籠」についての解説を執筆し た。	影山陽子・ 中尾和昇・ 松永友和	101頁

山田伸吉の生涯と画業（大阪都市遺産研究叢書別集9）	共編著	2015年3月	関西大学大阪都市遺産研究センター	本書は、松竹宣伝部に所属し、大正から昭和初期のモダンな時代に、舞台背景画のデザインなどの舞台意匠を手がけて活躍し、晩年には歌舞伎の名場面を油彩画で表現する「芝居画」という新たなジャンルを生み出した山田伸吉の作品について、関西大学大阪都市遺産研究センターが収集し、調査・研究を進めた成果をまとめるとともに、2014年に遺族から寄贈を受けた新出の作品類を紹介したものである。本書の編集を行うとともに、1932年と1975年に発行された雑誌に収められた座談会の分析を通して、山田伸吉が活躍した大正から戦後までの道頓堀の移り変わりについて考察した論考「山田伸吉と道頓堀」を執筆した。	長谷洋一	91頁
行基資料集	分担執筆	2016年3月	大阪狭山市役所	奈良時代の高僧行基に関する古代から近現代に至る資料を収録した資料集。巻頭解説であり、行基の生涯のあゆみと活動の継承について論じた「行基の生涯とその記憶」を執筆したほか、第一章・第二章・第五章および史料解題（古代）を担当し、収録資料の選定や構成、資料解説などを執筆した。	坂口太郎・吉井克信	383頁
(学術論文) 最澄撰「三部長講会式」にみえる御霊	単著	2002年7月	『史泉』第96号、関西大学史学・地理学会【査読有】	「三部長講会式」とは、比叡山で行われる護国三部経の長講会の次第を記したもので、大同・弘仁年間に最澄が撰述したものとされる。その成立をめぐっては従来から真偽が論争されていたが、本稿において、その内容から最澄が大同・弘仁年間に撰述したものであることを証明した。「三部長講会式」の神分の部分には、歴代天皇を始め皇族や貴族らの名前があり、長講会において追善の対象となっていたことがわかる。その人物の中に、貞観五年神泉苑御霊会の六座の御霊のうち、崇道天皇・伊予親王・藤原吉子・藤原仲成がみえることを指摘し、貞観五年の神泉苑御霊会の半世紀前に、最澄によって、のちに「御霊」とされる人々の慰撫が行われていたことを明らかにした。		p. 37-53
伊予親王事件の背景－親王の子女と文学を手がかりに－	単著	2004年3月	『古代文化』第56巻第3号、財団法人古代学協会【査読有】	空海の漢詩文集である『性霊集』巻四に収められている「為藤真川淨豊啓」は、伊予親王事件によって排斥されていた親王の文学であった藤原真川の登用を請願するための空海による上啓文である。その内容の分析から、伊予親王事件の背景は、平城天皇派と神野親王・伊予親王派の対立に、藤原菓子・仲成の策謀が加わった皇位継承争いであったことを指摘し、あわせて、空海の外舅で伊予親王の文学であった阿刀大足や六国史にある親王の子女についての記事の分析を通して、空海と桓武天皇・神野親王・伊予親王らとの交流について考察した。		p. 1-14

<p>嵯峨・淳和朝の「御霊」慰撫－『性霊集』伊予親王追善願文を中心に－</p>	<p>単著</p>	<p>2005年1月</p>	<p>『佛教史學研究』第47巻第2号、佛教史學會【査読有】</p>	<p>『性霊集』巻六には、年末詳のものと天長元年に行われた伊予親王の追善法会の際の願文が収められている。本稿では、年末詳のものが、伊予親王と藤原吉子が本位に復された弘仁十年の可能性が高いことを指摘した。また、空海の伝記にある乙訓寺別当の就任は、空海が乙訓寺に幽閉された早良親王（崇道天皇）の慰撫のためであることを考察し、最澄とともに空海も嵯峨・淳和朝において貞観五年神泉苑御霊会で「御霊」とされた崇道天皇・伊予親王・藤原吉子の慰撫にあたっていることを明らかにした。さらに、御霊への慰撫の契機が神泉苑御霊会では疫病流行であったのに対し、嵯峨・淳和朝では天皇不予と祈雨（旱害）にあるとした。</p>		<p>p. 1-19</p>
<p>「平田寺勅書」と御霊信仰－天平感宝元年閏五月二十日勅をめぐって－</p>	<p>単著</p>	<p>2005年12月</p>	<p>『古代史の研究』第12号、関西大学古代史研究会【査読無】</p>	<p>「華嚴経為本」の詔として南都六宗の成立において注目されている『続日本紀』天平勝宝元年閏五月癸丑条の詔の原文が静岡県平田寺に所蔵され、「平田寺勅書」として知られている。「平田寺勅書」からは、「華嚴経為本」の詔の全文が判明するが、その宣誓部には、この勅に違犯した者に「七廟尊霊」や「佐命立功大臣將軍之霊」などが大禍を起こすと記されている。こうした思想は、のちの御霊信仰の成立に影響するものであり、その萌芽を示す内容であると考察した。</p>		<p>p. 66-82</p>
<p>空海の得度・受戒年次をめぐって－三十一歳説の再検討－</p>	<p>単著</p>	<p>2007年4月</p>	<p>『續日本紀研究』第367号、續日本紀研究会【査読有】</p>	<p>空海の得度をめぐっては、『続日本後紀』承和二年三月庚午条の「空海卒伝」を根拠として三十一歳説が通説となっているが、平安時代中期ごろに編纂された空海の伝記には、二十歳で得度し、二十二歳で受戒したことが記され、受戒の際の戒牒である「大師御戒牒文」が掲載されたものもある。本稿では、平安時代～江戸時代に編纂された空海の伝記にみえる得度・受戒年次を整理するとともに、「大師御戒牒文」にみえる三師七証となった人物などの分析を通して、空海は、二十歳で得度し、二十二歳で受戒したと結論づけた。</p>		<p>p. 1-17</p>
<p>平安時代初期の得度・受戒制度－空海の「出家入唐」をめぐる二種の太政官符を中心に－</p>	<p>単著</p>	<p>2008年1月</p>	<p>『ヒストリア』第208号、大阪歴史学会【査読有】</p>	<p>『続日本後紀』の「空海卒伝」とともに、空海の三十一歳得度説の根拠として度縁とみなされている延暦二十四年九月十一日付け太政官符と空海の課役免除を命じた大同三年六月十九日付け太政官符について、平安時代初期の得度・受戒制度から分析した。当時の制度では、政府で保管され、本貫地などが記載された身分証明書となる度縁は、受戒後には廃棄された。延暦二十四年官符は、遣唐留学僧の空海が、唐での活動や帰国にあたって発給された公験であり、その後、この官符が、政府に保管され、空海得度に対する政府による公式見解となり、大同三年官符や「空海卒伝」の記述につながったとした。</p>		<p>p. 27-50</p>

木崎愛吉旧蔵「征西大將軍式部卿親王墓碑」拓本について	単著	2011年6月	『大阪都市遺産研究』第1号、関西大学大阪都市遺産研究センター【査読無】	関西大学博物館所蔵の木崎愛吉旧蔵本山コレクション金石文拓本のうち「征西大將軍式部卿親王墓碑」拓本について、熊本県八代市に所在する醍醐天皇の皇子で征西大將軍式部卿親王である懐良親王墓の現地調査を行い、この拓本が、現在は磨滅により文字の判読ができない状態であるが、親王墓に立てられた石柱のものである可能性を指摘した。また、明治初年に親王墓が選定される経緯を考察し、拓本に富岡鉄斎の識字があることから、芸術家として知られる富岡鉄斎が明治初年には神官として南朝ゆかりの地の顕彰に携わっていることから、墓碑の建立やこの拓本の背景には、当時の南朝史観があることを考察した。		p. 53 -60
入唐前の空海をめぐって—『御遺告廿五箇条』第十六条を中心に—	単著	2013年3月	『古代史の研究』第18号、関西大学古代史研究会【査読無】	入唐前の空海について、二十歳得度・二十二歳受戒説の立場から、それ以後の足跡を『御遺告廿五箇条』第十六条の分析を通じて考察した。本条は、真言宗年分度者の修学規定を指示したものであり、受戒後三年間、高野山で練行し、その後、師に随って密教を受学することを定めている。最澄の「山家学生式」には、天台宗年分度者に十二年間の比叡山での籠山を定めるが、これは最澄自身の体験にもとづくこととされ、本条の規定も空海自身の体験によると考えられる。空海は二十四歳で『髻髻指帰』を著しているが、これは受戒後、足かけ三年後のことであり、本条の規定と一致する。密教の受学は三年間の籠山後のことと定めることからすると、三年間の籠山は顕教の修業期間とみなされ、『髻髻指帰』は、空海の「顕教修学の集大成の書」と位置づけるべきであり、『御遺告廿五箇条』には、空海の遺命が反映されており、今後、逐条的に検討する必要があるとした。		p. 42 -57
空海の僧都補任をめぐって—伝記史料からみた大僧都補任年次と僧綱登用の背景—		2016年3月	『密教学研究』第48号、日本密教学会【査読無】	空海の僧都補任年次をめぐっては、『続日本後紀』の「空海卒伝」にある天長七年説と伝記史料にある天長四年説の二説がある。本稿では、伝記史料が根拠とする諸史料や、空海の著作などを分析し、天長四年説の可能性が高いことを指摘した。また、仏教界を統括する僧綱に空海が登用された背景について考察し、即位後間もない淳和天皇と、宮廷に勢力を有した嵯峨太上天皇が、密教による護国修法を期待したことにあると結論づけた。		p. 67 -81
(学会発表)						

最澄「三部長講会式」にみえる御霊	2001年12月	関西大学史学・地理学会2001年度大会（於：関西大学）	最澄が比叡山で護国三部経の長講を行う際の次第をまとめた「三部長講会式」には、歴代天皇や皇族、貴族とともに神泉苑御霊会で「御霊」とされた人物も慰撫の対象として記されている。本報告では、最澄の撰述について議論のある「三部長講会式」を最澄の真撰であると位置づけ、神泉苑御霊会の約五十年前に、最澄によって「御霊」の慰撫が行われていたことを指摘し、従来の御霊信仰や神泉苑御霊会の研究について再考する上で、この史料がきわめて重要であるとした。
空海の仏事法会と「御霊」	2003年11月	佛教史學會第54回學術大会（於：関西大学）	『性霊集』巻六・巻七・巻八には、空海が関わった仏事法会の際に作成された願文が収められている。本報告では、『性霊集』に収められた願文から法会の施主や開催した場所・日時などを一覧表とし、空海が関わった仏事法会について概観した。また、願文のうち、伊予親王とその母藤原吉子の二編の追善願文に焦点を当て、その内容の分析や法会開催の背景などを検討し、これまで貞観五年神泉苑御霊会を起点に研究が進められてきた御霊信仰について、最澄とともに空海の活動も注目すべきであると指摘した。
平安時代初期の得度・受戒制度－空海伝所収の太政官符を中心に－	2007年6月	大阪歴史学会2007年度大会古代史部会報告（於：大阪市立大学）	空海得度・受戒年次をめぐっては、現在では『続日本後紀』にある三十一歳説が通説であるが、空海の伝記や「大師御戒牒文」の分析によって二十歳得度・二十二歳受戒とする立場から、『続日本後紀』とともに三十一歳説の根拠となっている大和文華館所蔵の延暦二十四年九月十一日付け太政官符と『高野大師御広伝』などに所収される大同三年六月十九日付け太政官符について平安時代初期の得度・受戒制度から分析し、二種の太政官符に記載された出家年次が、空海得度年次を示すものではないと結論した。
空海の僧都補任をめぐって	2015年10月	第48回日本密教学会學術大会（於：真言宗智山派別院真福寺）	空海の僧都補任について、僧綱に登用された年次をめぐる『続日本後紀』の「空海卒伝」にある天長七年説と伝記史料にある天長四年説の二説を分析し、伝記史料が根拠とする諸史料や、空海の著作などによって天長四年説の可能性が高いことを指摘した。また、僧綱への登用の背景について、即位後間もない淳和天皇と、宮廷に勢力を有した嵯峨太上天皇が、密教による護国修法を期待したことにあるとした。
(その他)			

<p>【調査報告】 関西大学博物館所蔵本山コレクション「日本の部」拓本目録</p>	<p>単著</p>	<p>2006年3月</p>	<p>『なにわ・大阪文化遺産学研究センター2005』、関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター</p>	<p>関西大学博物館所蔵の木崎愛吉旧蔵本山コレクション金石文拓本の予備調査として行った軸装分の拓本について、古代から近代の金石文126点の目録である。それぞれの拓本について「外題」「員数」「装幀」「法量」「銘文の性格」などのほか、木崎編『大日本金石史』の採用の有無（採用分は巻数と頁数）、「備考」として朱印のあるものについては印文・木崎の書き込みを記している。あわせて、本山コレクションとコレクターの本山彦一、木崎愛吉の金石文研究、木崎旧蔵の拓本が本山コレクションに入った経緯について考察した解説を付した。</p>		<p>p. 7-39</p>
<p>【報告】 仏教史学入門講座第1回 いま仏教史が面白い！?</p>	<p>単著</p>	<p>2007年2月</p>	<p>『佛教史学研究』第49巻第2号、佛教史学会</p>	<p>佛教史学会の初の試みであった入門講座は、これから仏教史を学ぼうとする学部学生や大学院生を対象として開催された。第1回目の入門講座では、平雅行氏により「鎌倉新仏教論はなぜ破綻したか」・佐藤直美氏により「仏教の歴史を学ぶとは—インドから日本、そして未来へ—」という講演が行われたが、その記録を学会誌の『佛教史学研究』に掲載することとなり、入門講座の担当委員として企画から当日の運営に携わったため、開催の目的や経緯、当日の内容、今後の課題などを執筆した。</p>		<p>p. 89-91</p>
<p>【講演】 古代門真の治水事業～古代の茨田郡を考える～</p>		<p>2008年12月</p>	<p>門真市立歴史資料館歴史講座（於：門真市立歴史博物館）</p>	<p>『古事記』『日本書紀』に記される茨田堤築造の記事をはじめとして、日本古代の文献史料にみえる茨田堤関連の記事をたどるとともに、中世初期の茨田郡のあり様を紹介し、現在の大阪府門真市域にあたる茨田郡の古代における歴史的な位置づけについて講演した。</p>		
<p>【副読本】 吹田の文化遺産—千里山団地の記録—</p>	<p>共同制作</p>	<p>2010年4月</p>	<p>関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター</p>	<p>大阪府吹田市の千里山団地は、戦後日本の集合住宅の先駆けである。建設にあたっては、ダイニングキッチンや洋式トイレの導入などの新たな住環境の試みがなされ、その後の日本人の生活スタイルを大きく変貌させる契機となった。2010年3月の全面建替を前に千里山団地をくらしの文化遺産ととらえ、建設から現在までのあゆみなどを地域学習のためのDVDによる動画映像による副読本として制作した。</p>	<p>黒田一充・橋寺知子・藤岡真衣・常行貞臣・速水裕子</p>	<p>DVD</p>
<p>【講演】 行基と古代の門真</p>		<p>2010年12月</p>	<p>門真市立歴史資料館連続講座（於：門真市立歴史博物館）</p>	<p>現在の大阪府門真市域にあたる河内国茨田郡での行基の活動を『行基年譜』などの史料の分析によって考察し、茨田郡における彼の活動の歴史的意義と、古代の門真周辺の宗教世界について講演した。</p>		

【副読本】副読本 吹田の文化遺産	共同制作	2011年3月	関西大学大阪都市遺産研究センター	吹田市内の小・中学生用の地域学習の副読本。映像編DVDと史料編CDからなる。吹田市内の小・中学生用の地域学習の副読本を吹田市立小学校教員の助言を得て、独立行政法人日本万国博覧会記念機構などの協力のもと共同で制作した。吹田の歴史を動画映像によって解説する映像編DVDと吹田市内の有形・無形の文化財を動画映像や写真とともに解説した史料編CDからなる。	黒田一充・橋寺知子・藤井裕之・高橋隆博・大谷渡・藤岡真衣・常行貞臣・速水裕子	DVD・CD-R
【シンポジウム】最澄をめぐる諸問題－平安仏教史研究の新視角－	コーディネーター	2011年4月	佛教史學會特別例会（於：大谷大学）	伝教大師最澄に関して平安仏教の成立をめぐる問題について、藪田香融関西大学名誉教授・佐藤文子氏の講演ののち、吉田一彦名古屋市立大学教授を加えたパネルディスカッションにおいてコーディネーターを務めた。		
【講演】吹田の文化遺産－歴史を中心に－			2011年度関西大学ミュージアム講座「なにわの文化遺産(6)」 （於：関西大学）	大阪府の北部に位置する吹田市の古代から近現代に至るあゆみをたどりながら、大都市大阪の近郊都市として、また京都との中間に位置する立地から、吹田市が歴史的に担ってきた役割について講演した。		
【シンポジウム】住吉大社と豊臣期大坂図屏風－都市の祭礼と信仰をさぐる－	コーディネーター	2012年7月	関西大学大阪都市遺産研究センター地域連携シンポジウム（於：住吉大社）	オーストリアのエッゲンベルク城に所蔵される「豊臣期大坂図屏風」に描かれた住吉大社の夏祭りの様子を手がかりに、住吉大社の歴史・建築・祭礼について、小出英詞住吉大社権禰宜・永井規男関西大学名誉教授・黒田一充関西大学教授の講演ののち、高橋隆博関西大学教授を加えたパネルディスカッションにおいてコーディネーターを務めた。		
【講演】大阪万博と門真		2013年6月	歴史資料館特別展連続講座（於：門真市立歴史資料館）	門真市立歴史資料館の特別展「市制施行50周年プレイバック・かどま～収蔵品にみるあのとき、このとき～」の一環として開催された連続講座で、万国博覧会の歴史や大阪万博について当時の映像資料などをまじえて、高度経済成長期における門真について講演した。		
【シンポジウム】芝居町道頓堀の景観復元を目指して	コーディネーター	2013年6月	関西大学大阪都市遺産研究センター第5回大阪都市遺産フォーラム （於：関西大学）	関西大学大阪都市遺産研究センターが進めるCGによる明治末期から大正初年の芝居町道頓堀の景観復元プロジェクトにおいて、その成果の中間公開として開催されたフォーラムのパネルディスカッションにおいてコーディネーターを務めた。		
【講演】古代の茨田堤について～水都大阪の源流～		2013年8月	茨田堤祭歴史講演会（於：堤根神社）	伝茨田堤に位置し、堤の神を祀る大阪府門真市の堤根神社が毎年開催する茨田堤祭での第2回目の歴史講演会として、5世紀の茨田堤の築造が、大型前方後円墳に代表される倭王権の伸長を示すものであり、現在の水都大阪の源流となる事業であったことを指摘した。		

【講演】 弓削道鏡～最近の研究成果から～		2013年10月	資料館歴史講座「人物でみる八尾の歴史」第1回 (於：八尾市立歴史民俗資料館)	現在の八尾市域の出身とされる奈良時代の僧道鏡について、最近の奈良時代の仏教史研究の成果をふまえて、皇位篡奪をねらった怪僧としてとらえられてきたイメージを見直し、道鏡の仏教史的な位置づけについて講演した。		
【講演】 『銀二貫』からさぐる大阪の食文化		2014年3月	八尾市立山本図書館平成25年度文学講座 (於：八尾市山本コミュニティセンター)	第1回「Osaka Book One Project」を受賞した高田郁氏の時代小説『銀二貫』に描かれている近世大坂の食にまつわるさまざまなエピソードを取り上げながら、大阪の食文化について講演した。		
【展覧会図録】 再現！道頓堀の芝居小屋～道頓堀開削399年～	共編著	2014年4月	関西大学大阪都市遺産研究センター	本書は、2014年4月19日から5月25日に大阪くらしの今昔館で、同館と関西大学大阪都市遺産研究センターとの共催で開催された展覧会の図録である。本書の編集を行うとともに、「芝居町道頓堀のあゆみ」・「道頓堀五座の時代」・「中村儀右衛門」・「大阪の劇場大工 中村儀右衛門資料」の項目を執筆した。	長谷洋一・橋寺知子・児玉竜一	
【学会展覧】 2013年の歴史学界一回顧と展望ー 日本古代 七 (奈良・平安時代の宗教)	単著	2014年5月	『史學雑誌』第123編第5号、史學會	『史學雑誌』恒例の前年の歴史学界の動向を紹介する「回顧と展望」において、奈良・平安時代の宗教に関する成果についての項目執筆を担当し、仏教・神祇・信仰それぞれの1年間の研究成果を紹介し、批評を加えた。		p. 59 -62
【講演】 文献からひも解く伝茨田堤～地域ではぐくむ「歴史遺産」～		2015年3月	第2回門真市生涯学習フォーラム (於：大阪国際大学守口キャンパス)	『古事記』『日本書紀』に記される茨田堤築造の記事を分析し、その築造の歴史的意義について考察するとともに、地域の歴史遺産としての茨田堤の遺構を今後どのように地域として保存し活用していくのかについて提言した。		
【報告】 芝居町を展示する	単著	2015年3月	『阡陵』No. 70、関西大学博物館	関西大学大阪都市遺産研究センターが、2014年4月から5月に大阪くらしの今昔館で開催した展覧会と、2014年12月18日から2015年2月4日に早稲田大学演劇博物館で開催した展覧会「芝居町道頓堀の風景」について紹介するとともに、大学の研究成果発信の手法としての「展示」の可能性について述べた。		p. 14 -15
【講演】 高野山と空海ー歴史学からさぐる高野山開創の背景ー		2015年11月	公開講座フェスタ2015 (於：大阪府新別館南館)	今なお「大師のおわす山」として多くの人々の信仰を集める高野山の開創をめぐって、唐から帰国した後の空海の足跡をたどるとともに、空海が残したさまざまな「ことば」に焦点をあて、その歴史的背景について講演した。		
【講演】 高野山開創の背景		2015年11月	読書週間行事文学講座 (於：八尾市山本コミュニティセンター)	弘法大師空海の生涯をたどりながら、その生涯における高野山開創の歴史的意義について講演した。		

【講座】奈良仏教の世界－空海・最澄の登場前史－		2015年2月～3月	高野山大学連続講座（於：高野山大学大阪サテライトキャンパス）	空海や最澄によって日本仏教界に新たな潮流が生み出される以前である奈良時代の仏教について、大仏造立の背景や神仏習合思想の芽生え、「古密教」と呼ばれる空海以前の密教など、最新の研究成果をふまえ、全4回の連続講座として講演した。		
【講演】行基と狭山池		2016年2月	おおさかふみんネット 南河内生涯学習広域講座 南河内郷土探訪「狭山池築造1400年の歴史」（於：ゆめニティまつばら）	大阪狭山市に所在する日本最古のため池である狭山池の築造1400年を記念し、その歴史をたどる連続講座において、奈良時代に民間布教や大仏造立に貢献した行基の狭山池周辺での活動について、古代の大阪狭山市周辺の地域の信仰などから講演した。		
【講演】古代仏教のパワースポット－山林修行と金剛山地－		2016年7月	平成28年度千早赤阪村民大学 歴史講座第2回：前期「河内國とその時代」（於：くすのきホール）	日本古代における仏教を考える上で重要な山林修行について、歴史的変遷をたどりながら、その歴史的意義の変容や、山林修行のメッカであった金剛山系について、地域史の観点から講演した。		
【講演】弘法大師のご生涯－嵯峨天皇との交流を中心に－		2016年7月	平成28年度高野山学・中級講座（於：高野山大学）	弘法大師空海の生涯について、嵯峨天皇との交流の軌跡をたどりながら、空海による真言密教の流布における嵯峨天皇の果たした役割や、その交流のルーツについて講演した。		
【講演】空海による密教の請来－“国際都市”長安での日々－		2016年8月	平成28年度齋宮歴史博物館歴史講座（於：齋宮歴史博物館）	伊勢志摩サミット開催を記念して国際交流をテーマとした歴史講座において、遣唐使とともに唐にわたり、わが国に密教を伝えた空海について、留学中の足取りや交流した人々をたどることを通じて、当時、国際都市として繁栄した唐都長安での日々について講演した。		
【講座】嵯峨天皇と空海・最澄－「平安仏教」成立の背景－		2016年8月～9月	高野山大学連続講座（於：高野山大学大阪サテライトキャンパス）	日本仏教に新たな潮流を生み出した空海・最澄を輩出した時代、その後援者としての嵯峨天皇について、空海や最澄や、同じころ活躍した僧侶たちとの交流を通じて、嵯峨天皇と仏教に焦点をあてて、全4回の連続講座として講演した。		
(著書) 仏教史研究ハンドブック	共著	2017年2月	法蔵館	本書は仏教史を研究する初学者向けのテキストで、第3部日本の第1章日本古代において、「最澄・空海と「平安仏教」を担当。最澄・空海を中心とする「平安仏教」研究の現在までの到達点や今後の研究課題について概説した。	吉田一彦他 116名	p. 170-171
(学術論文)						

「国風文化」期の真言密教	単著	2019年8月	『日本佛教學會年報』第84号	現在の「国風文化」期研究の進展をふまえて、当該期の真言密教に関して弘法大師入定留身信仰の成立に着目し、中国の僧伝史料から、当時の中国では、高僧の「真身信仰」が盛んであったことを指摘し、円仁や円珍ら渡唐僧らがそれらを参詣しており、特に奄然に注目して、彼が真言僧としての自覚と弘法大師に強い信仰心をもっていたことから、帰国後の奄然が、東寺の高僧らと入定留身信仰の成立に影響を与えたと結論づけた。		p. 248-266
桓武天皇と一乗思想－「平安仏教」成立の一試論－	単著	2020年4月	塙書房	延暦17年（798）頃に、にわかにくローズアップされる三論・法相の相争について、桓武天皇が三論興隆策ともいえる詔勅をたびたび発布している背景を考察し、このころ、桓武が三論教学の根底にある一乗思想に傾倒し、それは当時、桓武を悩ませた早良親王の怨霊を救済することを目的とし、その結果として、最澄・空海が登場することを論じた。	西本昌弘	p. 299-314
(その他) 【学会発表】 義浄撰述書からみた求法僧の動向		2019年7月	高野山大学密教研究会令和元年度学術大会（於：高野山大学）	2017～2019年度科研「海洋交易路における仏教流伝形態の研究」の成果の一環として、海洋交易路を利用してインドに求法した唐僧義浄の著書『大唐西域求法高僧伝』に収められた僧伝のうち、海洋交易路を利用して求法僧について、求法経路・求法内容などを整理し、当時の南海諸国における仏教のあり様に関して基礎的考察を行い、インドでの最新の仏教が受容され、そのうちには密教が含まれていることが推測されると結論づけた。		
【書評】 藪田香融著『日本古代仏教の伝来と受容』	共著	2017年7月	『古代史の研究』第20号	古代仏教史研究の泰斗である著者の遺著で、日本仏教の伝来過程と受容・展開過程について考究した本書について、西本昌弘氏と分担した書評。本書に収められた11編の論考のうち、VII章からXI章の概要と意義、本書全体の意義について執筆した。	西本昌弘	p. 86-102
【訳注】 『秘蔵宝鑰』の訳注研究－巻中・第四唯蘊無我心（二）－		2017年12月	『高野山大学密教文化研究所別冊『秘蔵宝鑰の研究第二分冊』』	高野山大学密教文化研究所の「弘法大師空海の思想」研究班の研究報告の成果をもとに、空海の著書『秘蔵宝鑰』「第四住心」後半部について、訓読・用語釈・現代表現を通して訳注研究を行った。		p. 29-60
【講演・講座】 行基と「平安仏教」－“行基の記憶”を受け継いだ勤操－		2016年9月	平成28年度（2016）歴史文化セミナー簡修館（於：大阪府立狭山池博物館）	奈良時代の高僧行基の生涯と、『行基年譜』にある「狭山池院・狭山池尼院」に焦点をあて、同院での行基の活動と、平安時代初期に「狭山池所」で活動した勤操について、その教えと活動を講演した。		
弘法大師空海の魅力－歴史学から読み解く生涯の軌跡－		2017年2月	高野山大学連続講座（於：高野山大学大阪サテライト）	弘法大師空海の生涯について、謎の多い入唐前の足跡を、おじ阿刀大足に着目して青年期の環境を考察し、『豊賢指帰』撰述や密教との邂逅の背景を講演した。		

「聖地」としての生駒山－ “信仰の山”に魅せられた 人びと－	2017年3月	平成28年度歴史講演会「よみがえる歴史ロマンの旅」 (於：生駒ふるさとミュージアム)	日本人の基層信仰である山岳信仰について概説し、生駒山との関わりが伝わる役行者・行基・空海を取り上げて、歴史学的な視点から、彼らと生駒山との関係、山林修行の意義について講演した。		
弘法大師空海の生涯－入唐前の軌跡－	2017年5月	平成29年度難波市民学習センター・高野山大学官学連携講座「弘法大師空海の軌跡」第1回 (於：難波市民学習センター)	弘法大師空海の生涯のうち、入唐前の足跡について、歴史学の立場から考察し、密教を学ぶために中国に留学した背景について講演した。		
弘法大師空海の生涯－上は国家の奉為にして、下は諸の修行者の為にして－	2017年6月	平成29年度難波市民学習センター・高野山大学官学連携講座「弘法大師空海の軌跡」第2回 (於：難波市民学習センター)	弘法大師空海の生涯のうち、中国留学を終え帰国した後の足跡について、『性霊集』を手がかりに、歴史学の立場から考察し、空海による真言密教の歴史的意義について講演した。		
高野山の開創とその歴史－ 「大師のおわす」聖地の 1200年－	2017年7月	平成29年度高野山カレッジ 第1講座 (於：高野山大学)	世界遺産としての高野山の意義を解説し、弘法大師空海による開創から弘法大師信仰の中心地となるあゆみを、歴史学の立場から講演した。		
弘法大師空海の生涯－『性霊集』からたどる入唐後の軌跡－	2017年9月	高野山大学連続講座(於：高野山大学難波サテライト)	弘法大師空海の生涯について、「御請来目録」や『性霊集』をもとに、中国留学中の足跡や帰国後の事績を歴史学の立場から考察し、日本仏教史における空海と真言密教の意義について講演した。		
平安時代初期の社会と仏教－ 『秘蔵宝鑑』十四問答の 世界－	2017年9月	平成29年度「高野山学」中級講座 (於：高野山大学)	空海の著作『秘蔵宝鑑』第四住心の「十四問答」について、平安時代初期の政治や社会の動向から検討し、問答の内容が、当時の政治や社会の動向と密接に関連しているものであると講演した。		
高野山の歴史と信仰－“修禪の道場”から“大師信仰の聖地”へ－	2017年9月	高野山大学連続講座(於：高野山大学難波サテライト)	世界遺産としての高野山の意義を解説し、弘法大師空海による開創から弘法大師信仰の中心地となるあゆみを、歴史学の立場から考察するとともに、文部科学省私立大学研究ブランディング事業による活動を紹介した。		
行基の記憶－衆生救済をめざして－	2017年10月	大阪狭山市市制施行30周年郷土資料館特別展「行基伝承－受け継がれた記憶－」記念講演会 (於：大阪府立狭山池博物館)	奈良時代の高僧行基の生涯と、最澄・空海・勤操を取りあげ、「行基の記憶」が彼らによって受け継がれ、「平安仏教」の根底には、行基による衆生救済活動の実践があることを講演した。		
高野山の歴史と信仰－新たな高野山史研究をめざして－	2017年11月	八尾図書館秋の講演会 (於：八尾市立図書館八尾図書館)	弘法大師空海による高野山開創から弘法大師信仰の成立に至るまでの高野山の歴史を、関係史料を通して概説し、文部科学省私立大学研究ブランディング事業による活動を紹介した。		

高野山の歴史と信仰ー新たな高野山史研究をめざしてー	2017年11月	放送大学連携公開講座2017「高野山学」第2回（於：放送大学和歌山学習センター）	弘法大師空海による高野山開創から弘法大師信仰の成立に至るまでの高野山の歴史を、関係史料を通して概説し、文部科学省私立大学研究ブランディング事業による活動を紹介した。		
弘法大師空海の生涯Ⅰー入唐前の軌跡ー	2018年1月	河内長野市民大学「くろまる塾」弘法大師空海と高野山 第1回（於：河内長野市立市民交流センター）	弘法大師空海の生涯のうち、入唐前の足跡について、歴史学の立場から考察し、密教を学ぶために中国に留学した背景について講演した。		
弘法大師空海の魅力ー歴史学からさぐる生涯の軌跡ー	2018年2月	うだんぎ！第二弾～室生編～（於：宇陀市室生振興センター）	弘法大師空海の生涯を歴史学的に概説するとともに、室生寺を中心とした初期の真言密教の動向について講演した。		
弘法大師空海の生涯Ⅱー上は国家の奉為にして、下は諸の修行者の為にー	2018年2月	河内長野市民大学「くろまる塾」弘法大師空海と高野山 第2回（於：河内長野市立市民交流センター）	弘法大師空海の生涯のうち、中国留学を終え帰国した後の足跡について、『性霊集』を手がかりに、歴史学の立場から考察し、空海による真言密教の歴史的意義について講演した。		
東弓削遺跡（由義寺跡）の発掘から八尾の歴史を学ぼう～奈良時代の仏教から由義寺をさぐる～	2018年3月	八尾ライオンズクラブ東弓削遺跡関連事業「いにしへの由義寺跡から」第二部基調講演（於：八尾市立文化会館プリズムホール）	「僧尼令」や聖武天皇の仏教政策など奈良時代の仏教をめぐる状況と、八尾市を中心とした地域の仏教をめぐる動向について、称徳天皇・道鏡に注目し、称徳天皇建立の由義寺の歴史的意義を仏教史の立場から講演した。基調講演後のシンポジウムでは、パネラーとして、東弓削遺跡の今後の活用などについてコメントした。		
韜黙の日々ー密教宣揚までの道のりー	2018年4月	高野七口再生保存会「高野七口学」空海唐からの帰国「虚しく往きて実ちて帰る」（於：橋本市保健福祉センター）	唐から帰国後、密教宣揚の「勅縁疏」にいたる10年間の空海の事績について、『性霊集』を手がかりに、最澄を始めとする人々との交流からの考察にもとづき講演した。		
高野山の歴史と信仰ー修禪の道場から大師信仰の聖地へー	2018年9月	平成30年度「高野山学」初級講座（於：高野山大学）	弘法大師空海による高野山開創から弘法大師信仰の成立に至るまでの高野山の歴史を、関係史料を通して概説し、文部科学省私立大学研究ブランディング事業による活動を紹介した。		
空海の人物像に迫る	2018年9月	平成30年度難波市民学習センター・高野山大学官学連携講座「空海と密教を学ぶ～密教入門講座～」第3回（於：難波市民学習センター）	『性霊集』や『高野雑筆集』を手がかりに、空海をめぐる交流関係をさぐるとともに、それらに収められたいくつかの文章からみえる空海の人物像について講演し、文部科学省私立大学研究ブランディング事業による活動を紹介した。		

道鏡と奈良時代の密教－空海登場前史として－	2018年11月	八尾市歴史民俗資料館歴史講座「道鏡と奈良仏教」(於：八尾市高安コミュニティセンター)	奈良時代の高僧道鏡について、仏教史の立場からその事績を再検討することで、従来の評価を改め、空海登場以前の日本の密教を考える上で重要な人物であることを講演した。		
行基とその教え－菩薩道の目覚め－	2018年11月	生駒ふるさとミュージアム講演会(於：生駒ふるさとミュージアム)	衆生救済の実践を行った行基の思想的背景について、これまでの研究をもとに考察し、行基の師とされる道昭に注目し、飛鳥池遺跡から発掘された木簡を手がかりに、その教えは、中国で玄奘に学んだ道昭の影響にあることを講演した。		
弘法大師空海の生涯－「韜黙の日々」をさぐる－	2019年3月	高野山大学連続講座(於：高野山大学難波サテライト)	唐から帰国後、密教宣揚の「勸縁疏」にいたる10年間の空海の事績について、『性霊集』を手がかりに、最澄を始めとする人々との交流からの考察にもとづき講演した。		
最澄と空海－宮中仏事の展開－	2019年3月	日本書紀編纂1300年記念を前にして『日本書紀』を読む－寧楽の都から平安の都へ－(於：大阪よみうり文化センター京都センター)	桓武天皇の仏教への傾倒によって最新の唐仏教の請来を託された最澄・空海について、それぞれの生涯の事績と交流を歴史的に考察し、空海による御七日御修法の歴史的意義について講演した。		
空海以前の日本密教～奈良時代の社会と密教～	2019年10月	令和元年度「高野山学」初級講座(於：高野山大学)	空海以前の日本の密教受容について、奈良時代の仏教をめぐる動向を概説し、玄昉・道鏡に焦点を当てて、彼らが初期密教経典をもとに宮中を中心に活動していたことを講演した。		
大安寺の空海登場前史－義浄と道慈－	2020年8月	大安寺歴史講座vol.12「大安寺と弘法大師」第1回(於：奈良県立図書情報センター)	道慈が創建した奈良時代の大安寺について、義浄と道慈との関係に着目して考察し、空海の登場をうながす基盤が、奈良時代の大安寺にあったことを講演した。		
大安寺と若き日の空海－阿刀大足と大安寺をめぐる人々－	2020年10月	大安寺歴史講座vol.12「大安寺と弘法大師」第2回(於：奈良県立図書情報センター)	謎の多い入唐前の空海について、奈良時代末期から平安時代初期の大安寺をめぐる動向から考察し、空海に「虚空蔵求聞持法」を教示した「一沙門」の可能性を講演した。		